

少子化と学力「低下」

①昭和後期

大学序列

学生分布

一流校	A
二流校	B
三流校	C

②団塊ジュニア世代

大学序列

学生分布

一流校	A
二流校	B
三流校	C
新設底辺校	D

③少子化世代

大学序列

学生分布

一流校	A
二流校	B
三流校	C
需要不足で淘汰	D
	E

- A: IQ120～ 大学が建て前として要求するレベル(戦前の大学生)
 B: IQ110～120 高校の授業はわかる、百歩譲ってここまでが大学教育の対象(であるべき、高度成長前の「駆弁」大学生)
 C: IQ105～110 高校の授業はかなりあやしい(高度成長後の大学大衆化で進学するようになった層)
 D: IQ100～105 中学校の授業がやっと(戦前は中等学校に進学しなかった、平成の規制緩和後に大学進学するようになった層)
 E: IQ95～100 小学校の授業はなんとか(高度成長前は高校に進学しなかった層)

最近の大学生の学力低下は甚だしいという大学の先生の実感

国際比較で日本の小中学生の学力は必ずしも低下しているとはいえないという結果

この一見矛盾する二つの主張は少子化と(私立)大学定員拡大で説明できる(現在は②と③の過渡期)

今後、底辺校が淘汰されるのは当然として、E層を「開拓」しないかぎり、三流校(の一部)も淘汰が進むと思われる
 「大学卒にふさわしい」就職が可能なのは、B層までであるという現実が世間の「常識」になれば二流校も危ない

2013/3/24修正 ABS 福井義高